



「福澤育林友の会」ニュース

第34号 発行日2018年8月1日

福澤育林友の会
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190
<http://ikurin.jp/>



「森と私たち - 育林・活林」

福澤育林友の会

会長 渡部 直樹

(慶應義塾常任理事)



福澤育林友の会ニュースも今回で第34号の刊行となります。福澤育林友の会をお支えていただいている会員、関係者の皆様の日頃のご支援に御礼を申し上げます。

2018年は、まだ半年を超えた時点にもかかわらず、地震、水害、猛暑といった異常気象が日本中(また世界中)で頻発しております。特に、西日本11府県、102市町村を襲った「平成30年7月豪雨」は、私たちに自然の驚異・恐ろしさをもたらし、日本全国で発生した未曾有の集中豪雨は、西日本を中心に土砂崩れ、洪水、浸水を引き起こし、多くの死者・行方不明者を含む甚大な被害をもたらしました。深刻な事態に直面されている被災者の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

TV等のニュースで、河川が氾濫し、家屋が浸水・流出する光景が映されました。また、大量の倒木が濁流の中を流されている様子や、山崩れによって森林が切り裂かれた様も目にしました。本来、私たちの心を豊かにし、環境を守り維持する森林が、このような悲惨な状態になっているのを見るにつけ、自然との対話の難しさが実感されます。

わが国は、国土の3分の2を森林が占める、世界でも有数の森林資源国家です。しかも、森林の60%が植林による人工林ということです。そのため、森林が適切にその機能を果たすには、間伐や枝打ちといった人による作業が必要で、また、十分成長したものは伐採されて、木材やエネルギーとして利用する必要があります。そして、その後に新しく植林が行われ、数十年をかけてこのプロセスが再生産されることになります。私も、この森林の再生産システムを考えるにつけ、環境を-制度や社会のシステムを含め-維持するには、単にそのまま保存(コンサーブ)することではなく、森林のような進化的(エボリュージョナル)な視点が是非とも必要と、個人的には感じています。

慶應義塾も、この森林の再生産システム(=育林+活林)を一層推し進めたいと考えております。

昨年竣工した三田インフォメーションプラザでは、佐藤久一郎さんをはじめ林業三田会のお力をお借りして、南三陸の学校林の木材を内装材の一部として使うことが出来ました。本年7月31日に竣工する慶應義塾高等学校・日吉協育棟のホールおよびエントランスには、内装材として、美しく、香り豊かな南三陸の木材が用いられています。改めて林業三田会をはじめ、多くの関係された方に感謝申し上げます。皆様にもご覧頂ければと存じます。



日吉協育棟 協育ホール

森林環境教育 LEAF (Learning about Forests)

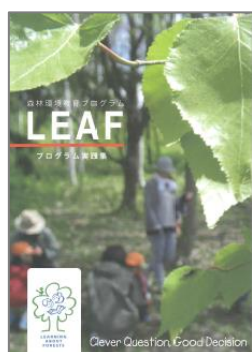
伊 藤 正 侑 子

(特定非営利活動法人 FEE Japan 理事長)



LEAF は、北欧の森林業界が森林産業の普及啓発のために開発したプログラムで、子どもたちの環境意識の向上と環境教育に関わる教師の育成を目的としています。

LEAF の原型となるプログラムは、1983 年にフィンランド、スウェーデン、ノルウェーなどの北欧で開発されました。



森林業界が環境教育を行う目的は、森林は持続可能な社会にとって不可欠であり、木材の使用は持続可能な開発につながるからです。そのためには子どもたちに、森や木の知識を得てもらうこと、そしてその良さを自分で考え、理解してもらうことが重要だと考えています。

LEAF では、実際に森の中で体験してもらうことを大切にしています。またインストラクターが提案するゲームや問いかけに、自ら感じたことや気づいたことを発表し伝えること、相手が話していることを聞くことを通じて、気づきを共有し、知識を増やしていくことを大切にしています。

環境に関する知識を定着させるには受動的な学びでなく能動的な学び、アクティブラーニングが必要です。

また森に対して一方からの見方や知識ではなく、森の経済、生態、文化、社会の側面をバランスよく理解し、広い視点で考えてもらうことも大切です。特に人と森との関わりである、経済的な側面を理解してもらうことが重要です。なぜならば、国連が掲げた持続可能な開発には、社会と環境そして経済の3つのバランスが明確にうたわれており、経済を無視した持続可能な社会は存在しないからです。

子どもたちは全員将来の消費者になります。また子どもたちは将来さまざまな職業に就き社会の意思決定者になります。子どものころから森や木についてアクティブに学ぶことで、大人になった時に賢い選択をすることになるでしょう。そして自分の行動を、ライフスタイルを、より持続可能な方向に変えることができます。



私たち大人が永遠に子どもたちを守り続けることは不可能です。これから起こりうるさまざまな問題に対して子どもたちが自ら考え、持続可能な社会に向けたよりよい選択ができるようにすること、それがこのプログラムの目指すところなのです。

LEAF ワークショップに参加して

塩 野 明 子
(1999 年政治卒)

「国産割り箸を広めたい」—2 年程前に国産割り箸の存在を知り（それまでは恥ずかしながら割り箸の産地など考えたことすらありませんでした）、その使いやすさと国内林業との繋がりにすっかり魅了されました。突拍子もない相談に当時の上司は当然の渋顔。そして、「林業家を紹介するから、とりあえず彼の話聞いてみなさい」とお会いしたのが本会世話人の吉田氏。そのご縁で昨年夏に入会、今年 6 月の LEAF ワークショップが初めての活動参加でした。



ワークショップは大きく 3 部構成。まずは大人・子供に別れてキャンパス内の葉や木枝を使っのフィールドワーク。普段意識することの少ない“触感”の記憶が呼び覚まされました。続いて屋内に戻ってチーム毎の発表。子供達が皆、臆することなく楽しく発表や質問をしていたのも、インストラクターの方々の包容力溢れる場づくりゆえだと感じました。最後に大人は FEE Japan 伊藤氏の講演会、子供は工作（輪切りされた志木の森の間伐材を、紙ヤスリで削りペンマークの焼印を押しコースターに仕上げる）でした。



伊藤氏の講演には非常に感銘を受けました。特に共感したのが、LEAF の森の多様性への視点、そして未来に責任ある判断ができる人を育てるというビジョン。森や生命の多様性を知ること

は、人間社会の多様性を認め合うことにも繋がると思います。また、視覚や知識だけに偏重せず、五感で学び感じ取ったことは、森林や環境を「自分事」として捉え、考えることができる基盤になるはず。北欧諸国同様、日本の子供達も継続的に LEAF ワークショップに参加できる機会が欲しいと思いました。

最後にまた割り箸の話で恐縮ですが、現在は東京杉の割り箸を中心に販売しています。今後は産地のラインナップを増やし、都会の生活に無理なく日本の森の恵みを取り入れ、森を身近に感じるきっかけを微力ながら広げていければと考えています。今回お会いした皆様とのご縁に感謝すると共に、これからも本会活動を通じて学ばせて頂きたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



2018 年度「研修旅行」の案内

2018 年 9 月 8 日(土) ～ 9 日(日)

今年の研修旅行は、株式会社 T-FORESTRY 代表取締役の辻村百樹氏にご協力いただき、2018 年 9 月 8 日(土)～9 日(日)で小田原を訪ねる旅を企画しました。

1 日目は、辻村氏所有の山林木材を一部使用している「小田原城」や「報徳二宮神社」を訪れます。午後は、辻村氏が経営している「フォレストアドベンチャー」で大径木の森等を見学します。山林見学以外にも、有料のアドベンチャー体験が選択できます。

2 日目は、慶應義塾志木高等学校にゆかりのある松永安左エ門が住んでいた「松永記念館」を訪れます。その後は、小田原邸園として見逃せない「古稀庵」や「清閑亭」を見学し、最後に天狗伝説のある「大雄山最乗寺」へ移動し参詣します。

天候や交通機関等の都合により、見学先等を変更する場合がありますので予めご了承下さい。詳細につきましては、別紙案内をご覧の上、奮ってご参加下さいますようお願い致します。

記

日 程：2018 年 9 月 8 日(土) ～ 9 日(日) 1 泊 2 日

締 切：2018 年 8 月 30 日(木) ※ 募集人数 40 名に達し次第、締切日前でも募集終了となります。

費 用： 会員 26,000 円
非会員(一般) 28,000 円
学生 18,000 円

日帰りの場合(全員)
9 月 8 日のみ 15,000 円
9 月 9 日のみ 5,100 円

<注意> 8 月 10 日(金)～8 月 16 日(木) は慶應義塾三田キャンパス夏季一斉休暇のため、この間のお問合せ等の対応はできません。

以上

2017 年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：163 名 (2018 年 4 月 1 日現在)

2017 年度	収 入	支 出	摘 要	会費の口座振替について 2018 年度会費の口座振替予定日は 2018 年 9 月 25 日(火)を予定しています。
前年度繰越金	5,081,975			
会費	1,395,000		2017 年度会費(152 名分)	
事業参加費	133,000		シンポジウム・研修旅行	
利息	48		普通預金利息	
寄附		1,000,000	慶應義塾へ寄附	
通信費		59,649	ニュース・案内等発送通信費	
事業経費		293,218	シンポジウム・研修旅行	
手数料		18,549	会費引落サービス手数料	
当年度収支	1,528,048	1,371,416		
次年度繰越金	5,238,607			

【慶應義塾への寄附】

本会会則の目的にある「慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。」こととして、年度末に残余金の一部を慶應義塾へ寄附しました。寄附から支出した事業・内容については、慶應義塾から連絡を受けて、後日ご報告予定です。